

平成 26 年度
那霸市若狭公民館
事業報告



II 平成26年度若狭公民館事業目次

1 学習風景（写真）	3
2 成人一般対象事業	
〔1〕市民講座	
◇ やってみよう！フェイスブック活用術（初級編）	4
◇ 日本列島 食の旅	5
◇ 若狭ダイエット部 変身	6
3 高齢者対象事業	
〔1〕高齢者学級	
◇ 認知症予防講座	7
4 青少年対象事業	
〔1〕少年教室	
◇ わかさマジムン紙芝居	8
◇ WAKASAこどもクッキング	9
◇ キッズ販売体験	10
〔2〕青年のための講座・交流事業	
◇ 私と仕事のいい関係 vol. 2	11
〔3〕放課後子ども教室	
◇ 若狭公民館地域子ども教室	12
5 家庭教育事業	
〔1〕家庭教育学級	
◇ Happy子育て応援隊	13
◇ 目からウロコの「キャリア教育」学習会	14
◇ 生きる力を育むために	15
◇ 子育て勉強会	16
6 その他事業	
〔1〕地域連携事業	
◇ 第18回若狭地域文化祭	17
◇ CGG年末美化清掃プラスONE	18
◇ 新春もちつき大会	19
◇ 第20回ナイトウォーク	20
〔2〕文部科学省「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」	
◇ 大学生が教える勉強会	21
◇ 地域円卓会議	22
〔3〕その他事業	
◇ こども国際映画祭 in 沖縄<KIFFO>	23
◇ 無料英会話教室「ELIPO」	24
7 公民館まつり	25, 26

1 学習風景



☆青年のための講座・交流事業
「私と仕事のいい関係vol. 2」



☆市民講座
「日本列島 食の旅」



☆少年教室
「キッズ販売体験」



☆家庭教育学級
目からウロコの「キャリア教育」学習会



☆文部科学省実証研究事業
「大学生が教える勉強会」



☆その他事業
「こども国際映画祭in沖縄」

2 成人一般対象事業

[1] 市民講座

やってみよう！フェイスブック活用術（初級編）

趣 旨： SNSと呼ばれるソーシャルコミュニティの中で、誰でも簡単に始められて、なおかつ楽しいフェイスブック。その魅力もさることながら、SNSという媒体の中に秘められた危険性などについても、初心者向けに優しく解説し、理解を深めてもらう。

講 師：村田祐子（クリックボイス沖縄代表）

期 日：平成26年6月9日（月）・16日（月）19：00～21：00

場 所：若狭公民館 第一研修室

参加者：43名

対 象：那覇在住勤の成人

プログラム

	時 間	内容
9日	19：00～ 21：00	講師の村田さんが、コンピューター音痴だったのに、いかにしてフェイスブックなどのSNSを活用するにいたったか。そして初步的なフェイスブックの機能説明のあと、未登録者は実際に登録する所まで行った。
16日	19：00～ 21：00	残っていた未登録者を全員登録させて、さらなる裏技的なことや、タグ付け、友達の増やし方、妖しい友達申請を見分ける方法などに付いて座学を行った。



（参加者の声）

- ・ フェイスブックをやるのは初めてでしたが、職員と講師の先生のおかげで登録することができました。まだまだわからないことだらけですが、これからがんばって使って行くつもりです。（50代男性）
- ・ 自分の持っているサイトなどをフェイスブックで宣伝して行きたいです。ヒントをいただいた（60代男性）
- ・ 楽しかったです。まだまだわからないところがあることに気付きました（30代女性）

（まとめ）

最近流行のフェイスブック。まだまだ分からぬ人も多い中で、初級編としてその役割は果たせたように思われる。年代的には高齢の方や、普段はスマートフォンなどをあまり使ったことのない方も参加しておられたが、これを契機にして新しい世界に飛び込んでくれそうな予感がした。

日本列島 食の旅

趣 旨： 日本全国にはその土地によって様々な特色のある料理がある。その土地の文化や地域性を学びながら各地の郷土料理を作る。また、県外から移住して来た方が、自分の出身地の郷土料理を教え合う事で故郷への思いがより深まるのではないか。“学んで作って食べる”ことにより食への関心を持つ。そんな食の旅にでかける。

期 間： 平成26年6月～27年1月の第4土曜日の7回プラス番外編の全8回

時 間： 14：00～17：00

場 所： 若狭公民館 実習室

対 象： 那覇市在住・在勤の方

受講料： 無料（ただし、材料費・保険料として1回800円を徴収）

定 員： 12人（先着順で定員に達し次第しめきり）

参加延べ人数：48人

講 師： 荒木 喜代子（那覇市社会教育指導員OB会）（第2回）

プログラム： 第1回 6月27日 秋田県「だまこ鍋」・山形県「だし」

第2回 7月25日 熊本県「いきなり団子」・宮崎県「冷や汁」

第3回 8月22日 函館 「いかめし」

第4回 9月26日 山梨県「ほうとう鍋」

第5回 10月24日 北海道「鮭のちゃんちゃん焼」・岐阜県「五平餅」

第6回 11月28日 京都「京風雑煮」・福島県「くるみゆべし」

第7回 1月24日 沖縄県「ムーチー」・福島県「いか人参」

番外編（行事料理） 2月3日（火）節分にちなんで「恵方巻き」



（受講者の声）

- ・他県の食について勉強することが出来て良かった。
- ・今回の講座は、食べたことのない他県の郷土料理を作ることが出来たのでとても楽しかった。
これからも気軽に参加できる講座があれば、参加したいと思います。
- ・日本各地の食と文化をチカラ体験できてとても楽しく、実り多い講座でした。
是非“日本列島 食の旅”第2段の開催を宜しくお願ひします。
- ・楽しく 美味しく、ご当地出身の方のお話を聞くことができたのもとても良かった。食と文化がセットな
のが良かったですね。

（まとめ）

全国には、その土地の特産物を使った料理や、気候に合った料理法など、たくさんの郷土料理が有る。

しかし、テレビや雑誌などで目にする程度で私たちが実際食する機会は、めったにない。

今回、ほんの一部分ではあるが気になる郷土料理を作って、食べて、その土地の文化や風習を学び、視野を広げる機会になればと思い講座を開いた。どこの県にどんな郷土料理が有るのか分からぬ方が殆んどではあったが、楽しく作り 学び合う事が出来、たいへん充実した講座になった。

若狭ダイエット部 変身！

趣 旨：生活習慣病にかかる人が増えている沖縄で、ダイエットは重要な課題。ストイックで危険なダイエットではなく、楽しく負担なく続けられる方法を紹介し、講座後も各自で取り組んでもらうことが狙い。ダイエット、という世代を超えた关心事を通して、参加者同士が交流する場となることを望む。

期 間：平成26年10月2日（木）～10月16日（木）全3回

時 間：19：00～21：00

場 所：若狭公民館ホール、松山公園

対 象：那覇市在住、在勤、在学の18歳以上の方。

参 加 料：300円（保険料等実費）

定 員：30人

参加延べ人数：42人

講 師：堀川 恭登

学習プログラム

回	月 日	講 師	内 容	人 数
1	10月2日（木）	堀川 恭登	人体や脳の仕組みについて学び、ダイエットに活かせる知識を得た。その後、体を引き締めるリズム体操をして、心地よい汗を流した。	14
2	10月9日（木）		公民館の近くの松山公園で、ウォーキング。外に出て体を動かす楽しさを学んだ。	15
3	10月23日（木）		家でもできるストレッチ体操を学んだ。ペアでの体操は参加者同士の交流にもなり、楽しく盛り上がった。	13



(参加者の声)

- ・「ダイエット」という言葉がつくと受講したくなります。今後ともよろしくお願いします。
- ・脳の運動という考え方がとても新鮮でした。受講した内容を活かして健康づくりにはげんでいきます。

（まとめ）

参加者は、とてもまじめにダイエットに取り組んでいる方が多い印象だった。改めて、需要があることを再確認した。これ以降も定期的にダイエット講座を企画し、効果が出たという声が聞けるようにしたい。堀川先生のおかげでとても楽しい講座になり、終始参加者が笑顔で受講していて雰囲気が良かった。

2 高齢者対象事業

〔1〕 高齢者学級

認知症予防講座

趣 旨： 認知症は、現在の医学では残念ながら完治は見込めないと言われている。

しかし、最新の医療では完治できないまでも進行の度合いを大幅に遅らせることが出来るようになってきた。そのためには、早期発見・早期治療が大切である。

健康で充実した老後を楽しむために、認知症について正しく学ぶ。

期 間： 平成26年7月30日（水）・8月6日（水）の 全2回

時 間： 午後2時～4時

場 所： 那覇市若狭公民館 第1研修室

対 象： 那覇市在住・在勤で60歳以上の方

受講料： 無料

定 員： 30人（先着順で定員に達し次第しめきり）

参加延べ人数： 59人

講 師： 星野 真二郎（大道中央病院 内科医師） 渡久地 かおり（作業療法士）

及川 恵（運動指導士） 奥平 名奈子（運動指導士）

プログラム： 7月30日（水）認知症の初期症状と対応・脳トレ（ゲーム・パズル・運動）

8月 6日（水）認知症の予防と対策・脳トレ（ゲーム・パズル・運動）



（受講者の声）

- ・ パワーポイントの字が小さく見えづらかった。先生の説明が早くて理解しにくかった。
- ・ 2回の講座では不足です。これからも度々この様な講座を開催して欲しい。
- ・ 作業療法士の方は、ゆったりと、はっきりした口調で話してくれたのでわかりやすかったです。また、童謡を久しぶりに歌って楽しかった。軽度の認知症に音楽療法が脳の機能を活性化させるための手段の一つになっているとの事。楽しく歌って認知症を予防して行きたいと思います。
- ・ 最後の運動の先生は、元気が良く、受講した私たちまで元気になれました。ありがとうございました。
- ・ 全体的にとても満足しました。これから、講座で教わったことを日常の生活の中に取り入れて認知症を予防していくこうと思います。

（まとめ）

高齢化により認知症を患っている方が増え、本人はもちろん、家族や周囲の人にも深刻な問題となっている。症状の進行を遅らせる薬を投与するが、完治するものではなく、発症を遅らせるなどの予防が大切である。今回の講座では、認知症を正しく理解し学ぶことにより、生活習慣を見直し、バランスのとれた食生活・適度な運動・活発な精神活動を維持することにより、脳の機能を常に活性化させることができることが認知症予防に効果的であるとのことを学んだ。健康で充実した生活を送るために必要な知識を得ることが出来、講座の目的である「認知症予防」に繋がったのではないかと思う。

2 青少年対象事業

〔1〕 少年教室

わかさマジムン紙芝居

趣 旨：夏休みに沖縄に伝わる伝承を元にした紙芝居を見ながら、子どもたちに沖縄の伝承や古くから伝わるマジムン（妖怪）の話などについて、楽しみながら理解をしてもらう。

講 師：小原猛（若狭公民館）、佐渡山安博（沖縄の紙芝居やー）

期 日：平成26年8月20日（水）10：00～12：00

場 所：若狭公民館 第1研修室

参加者：31人

対 象：小学校3年生以上の児童、及び保護者

プログラム

内 容	人数
座学および紙芝居 小原猛（文）、つかやまつよし（絵）の紙芝居を佐渡山安博が朗読。 小原が適所に解説を入れた。 <紙芝居朗読> 1 「ザン」（石垣島野底） 2 「鄭大夫と牛マジムン」（那覇市辻） 3 「飴買い幽霊」（那覇市美栄橋） 4 「仲西ヘーイ」（那覇市潮渡橋） *4のみ制作／脚本・新垣屋 5 「ヨナタマ」（宮古下地島） 6 「耳切坊主」（那覇市若狭）	31



（参加者の声）

- 「石垣島のザン」は初めて知った話で良かったです（30代女性）
- マジムンの紙芝居が面白かったです（9歳）
- 「飴買い幽霊」の話、親が子を思う気持ちはとてもあたたかい（10歳女性）
- 不思議な話に懐かしさがあり、童心に帰れる感じがした。子どもが喜ぶ、大変素晴らしい催しでした。歴史的にも勉強になると思います（38歳女性）

（まとめ）

沖縄の有名な伝承をもとに若狭公民館で紙芝居を作った。デジタルな時代にあえてアナログな紙芝居という方法を選択したのは、こういった口承で伝えられて来たフォークロア（伝承）を、現代にあっても口承で伝えていくことが重要なのではないかと思ったからである。子どもたちは紙芝居という、現在では見慣れていない形式に新鮮味を感じ、大人たちは物語の中に懐かしさを感じる、そんな講座となった。

WAKASAこどもクッキング

趣 旨： 子どもたちからリクエストの多かったおやつ作りをする。お菓子作りを手始めに料理に興味を持つきっかけづくりとする。

期 間： 平成26年8月11日、18日（全2回）

時 間： 14:00～16:00

場 所： 若狭公民館 実習室

対 象： 若狭小学校、天妃小学校の児童（4年生～6年生）

受講料： 無料（保険料、食材費実費として900円）

定 員： 12名（先着順）

申込人数：7人

参加延べ人数：16人

調理指導：東澄子（NPO法人 地域サポートわかさ）

学習プログラム（ホットケーキミックスで簡単おやつ作り）

回	月日	内容	参加人数
1	8月11日	調理実習 「さっくり、簡単スコーン」	8人
2	8月18日	調理実習 「なんちやって、パン」	8人



（受講者の声）

- ・ホットケーキミックスで様々な食べ物が作れることを知った。そして、調理できて楽しかった。
- ・レシピをもらったのでまた作ってみたいです。
- ・「WAKASAこどもクッキング」は、はじめてだったので楽しかったです。今度は、冷たいスイーツを作ってみたいですね。

（まとめ）

今回のクッキングは短時間で簡単に作れて、それでいて失敗も少ないホットケーキミックスを使ってお菓子作りをした。調理の進み具合にバラつきがあったが上手く焼き上がり子どもたちも大満足のようであった。

お菓子作りは基本の生地をマスターすると、トッピングで味のバリエーションも広がるので、これをきっかけに料理をもっと楽しんでほしいと思う。

キッズ販売体験

趣 旨： 若狭地域文化祭において、こども達による販売体験をする。お店を出店するにあたり事前に必要なことを学び一連の流れを体験する。その中で、みんなで知恵を出し合い協力しながら、働くことについて考えるきっかけづくりとする。

期 間： 平成26年10月5日、15日、16日、31日、11月1日、8日 の全7回

場 所： 若狭公民館 第1研修室、第2研修室、実習室、若狭海浜公園

対 象： 小学生（4年生以上）

受講料： 無料（保険料として400円）

定 員： 10人（先着順）

申込人数：5人

参加延べ人数：33人

協力：松本直子（なはグッジョブ連携協議会）/ 福田大樹（SMBCコンシューマーファイナンス）

学習プログラム

回	月 日	時 間	内 容	参加人数
1	10月5日（日）	9:00～12:00	第1回. 何を売るか考えよう！	3人
2	10月15日（水）	9:00～12:00	第2回. お金について知る&販売会議	5人
3	10月16日（木）	9:00～12:00	第3回. 売るための工夫&販売作業	5人
4	10月25日（土）	9:00～12:00	追加作業	5人
5	10月31日（金）	17:00～18:00	第4回. 事前確認とミーティング	5人
6	11月1日（土）	12:00～17:00	第5回. 若狭地域文化祭にて販売体験！	5人
7	11月8日（土）	10:00～12:00	第6回. 振り返り会	5人



お買い物のゲーム



販売会議



お祭り当日

（受講者の声）

- ・お店の人は商品を安く仕入れて高く売ることがわかりました。また、お店をやりたいです。
- ・キッズ販売体験をして、人に物を売ったりするのにはとても努力が必要だということがわかりました。
- ・お金をもうけるのがすごく大変なことがわかった。

（まとめ）

地域祭りでお店を出店することを前提にお金と物の流通の仕組みを学び、子どもたちが主体となって企画し準備を進めてきた。何を売るか？また、売り上げたお金はどうするのか？大人スタッフのサポートもありながら出店にこぎつけることができた。祭り当日は、声を張り上げて宣伝したり、最後まで取り組むことができた。この販売体験をとおして、働くということに関心をもつきかけになったと思う。

[2] 青年のための講座・交流事業

私と仕事のいい関係vol.2

趣 旨：前年度に開催した「私と仕事のいい関係」で、働くことについて迷いや悩みを抱える方が多かつたことを受け、第2弾を企画した。働くことの意義や意味、また働く時に大切なことは何か、など講師と受講者とが共に考える機会として設定する。

日 時 時：平成26年9月22日（月）、9月29日（月）、10月6日（月）全3回

間：19：00～21：00

場 所 若狭公民館第1研修室

対 象 象：那覇市在住、在勤、在学の18歳以上の方。

参 加 料 無料

定 員 員：30人 参加延べ人数：36人

学習プログラム

回	月 日	講 師	内 容	人 数
1	9月22日（月）	柳下 換 (横浜市立大学非常勤講師) 玉城 真 (うえのいだ菜園 主宰)	『働くのは何のため？』をテーマに、うえのいだ菜園の玉城真さん、教育者の柳下換さんのお二人からお話を伺った。働くということ、生きていくことについての深い話を聞くことができた。	14
2	9月28日（木）	柳下 換 ニシムラ トモコ (ハニー株式会社代表)	働く上で心構えや考え方を伺い、働く現場にダイレクトに役立つ話を伺った。「本気で、一番楽な道を探す。」というスタイルなど、働く上でとても参考になる内容であった。	16
3	10月23日（木）	柳下 換	今回の講座の総括として、柳下さんからお話を伺いました。科学的に問題を解決する力の重要性についてなど、難しい話をわかりやすく話して頂いた。	6



(参加者の声)

- ゲストの方の一つ一つの問いかけ・回答に温かみがあり、「働く」ことへの意味について深く、前向きに考えていきたいという気持ちになりました。

(まとめ)

働くことについては考え方や取り組み方も人の数だけあると思うが、抱く悩みや解決のヒントには共通するものがあると感じた。今後も多角的に取り組める課題だと思うので、より多くの方に興味を持って頂けるような形で企画できたらと考えている。

〔3〕 放課後子ども教室

若狭公民館地域子ども教室

趣 旨： 子どもたちの安全な放課後の居場所として公民館を利用することから、児童が地域社会の成員として意識し、主体的に地域づくりに参画できる人材になることを目的とする。また、エイサーをおして郷土の文化・芸能に触れる。

日 時： 平成26年4月1日～平成27年3月31日（練習日）毎週火・木曜日17：00～18：00

場 所： 若狭公民館 ホール及び第1研修室

対 象： 若狭小学校、天妃小学校、那覇中学校の児童生徒

登録児童： 27人

参加延べ人数： 1993人

指導者： 岸本麗子（若狭1丁目自治会会长/若狭小学校区まちづくり協議会子ども育成部長）

【参加イベントの内容】

4月	大型旅客船バースで見送り演舞・波の上ビーチ「海びらき」オープニングセレモニー 若狭二丁目自治会総会
5月	なんみん祭 行列・若狭小学校PTA主催「職員歓迎会」
7月	高齢者複合施設「うえの家」訪問演舞、遊YOU塾（宮城県）交流会 まつやま保育園夏祭り・若狭小PTA主催「わかさっ子祭り」
8月	一万人エイサー踊り隊・那覇港臨港道路若狭2号線開通式・夏休み自然体験
9月	若狭二丁目自治会敬老会・若狭一丁目自治会敬老会と夏祭り・介護老人福祉施設「パークヒル天久」訪問・大型旅客船バースで見送り演舞
10月	マックスバリュ牧志店「開店10周年記念」・第21回なは青年祭
11月	第18回若狭地域文化祭・天妃小PTA主催「天妃っ子まつり」
12月	マックスバリュ若狭店「開店祝い」・なは教育の日式典・第17回子どもフェスタinなは・クリスマス会
1月	新春もちつき大会
2月	若狭一丁目自治会生年祝い・波之上通りをにぎやかにする会・大型旅客船バースで見送り演舞
3月	若狭公民館まつり・遊YOU塾（青森県）交流会



練習の風景



一万人エイサー



なんみん祭

（受講者の声）

- ・エイサーでいろいろな踊りを覚えたのがよかったです。
- ・交流会などで県外の友達ができたり、お泊り会があつたりして楽しかった。

（まとめ）

沖縄の伝統芸能エイサーを習得し、地域に関わりをもつことで、将来、地域に誇りをもち大切にする気持ちが芽生えていくと思う。また、多様な場面で発表することは、児童の自信につながり向上心が育まれる。

5 家庭教育事業

〔1〕家庭教育学級

Happy子育て応援隊

趣 旨： 子育て世帯が集える場をつくり、お互いが情報交換しながら子育ての不安や悩みがクリアになるように手助けをする。

期 間： ①平成26年6月21日（土） ②9月20日（土） ③11月22日（土）
④12月20日（土） ⑤平成27年1月17日（土） 計5回

時 間： 14:00～16:00 場 所： 若狭公民館 第1研修室・和室

対 象： 那覇市在住、在勤の保護者もしくは親子

受講料： 無料（但し資料代として、100円自己負担あり）

定 員： ①10人 ②20人 ③15組 ④20人 ⑤20人

申込人数：86人 参加延べ人数：54人

学習プログラム

回	月 日	内 容	講 師	人 数
①	6月21日	座談会		16人 親子
②	9月20日	生と性、子どもと向き合うコツ	百名奈保（助産院きらきら助産師、保健師）	11人 親のみ
③	11月22日	幼児からの性教育	百名奈保（助産院きらきら助産師、保健師）	15人 親子
④	12月20日	やる気アップの魔法の質問&ボディートーク	安次富範子 (しあわせ工房代表)	5人 親のみ
⑤	1月17日	わたしと子ども、なりたい自分になる魔法の質問	安次富範子 (しあわせ工房代表)	親のみ



座談会



性教育



魔法の質問

（受講者の声）

- ・子育て講座にはじめて参加しました。他の方も自分と同じような悩みを持っているのだと安心しました。
- ・話しやすい雰囲気で性を語れる場がなかったので本当によかったです。他の保護者の意見も参考になりました。
- ・子どもに対する声掛け、一緒に解決策を考えられる声掛けを教えていただいて、日常の中で今日のことを思い出して先ずは自分から変わっていけるといいなと思います。

（まとめ）

はじめに座談会で情報交換をしたうえでテーマを決め進めていった。「生きる力」を育む内容に重点をおき、テーマごとに関心を持つみなさんが集い専門の先生のお話を伺いながら意見交換をした。毎回、違うメンバーの参加だったが、子育てという共有する部分で会話が弾んでいた。また、性教育については、デリケートな話題だけに不安を感じているという声も多かったことから必要性を感じた。

目からウロコの「キャリア教育」学習会

趣 旨：変化の早い現代社会において、子どもたちには「生きる力」が求められている。そもそも「生きる力」とはなんなのか、これから社会を見通した上で、家庭や地域で子どもたちに対してできること、やるべきことについて考える。

日 時：平成26年8月22日（金）19：00～21：00

場 所：若狭公民館 第1研修室

対 象：那覇市在住、在勤の方

受講料：無料

定 員：30人

参加者：25人

講 師：翁長 有希（NPO法人沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク 理事長）

共 催：なはグッジョブ連携協議会



（受講者の声）

- ・各学校での事例や教育現場で求められているキャリア教育の在り方について何が大事なのかよくわかった。
- ・子どもたちの現状と、それを踏まえて子どもたちをどう導くかということについての実践事例などから学ぶことができた。
- ・机の上の勉強が最重要ではない。私が子どもだった頃と違っていることに目からウロコでした。
- ・子どもと一緒に探求心、達成感を味わいつつ寄り添っていきたい。

（まとめ）

学習指導要領にも記載されている「生きる力」について、現代の社会状況の変化から今後予想される社会の有り様を見据えた上で考えることができ、生き方や考え方を育む上で学校だけではなく、家庭や地域が連携し一体となって取り組むことが重要であることが理解できる内容だった。

また、講話とグループワークを取り入れたプログラムの構成は、受講者がより主体的に考えることができ、効果的だったようだ。

生きる力を育むために

趣 旨：複雑化する現代社会を生きるにはどのような力が必要となるのか。文部科学省が目指す教育の方向性と、学校・家庭・地域をつなぐ最新事例をすることによって、家庭や学校のみならず、地域に暮らす私たち一人ひとりが子ども達のためにできること、やるべきことについて考える。

日 時：平成26年9月8日（月）19：00～21：00

場 所：若狭公民館 第1研修室

対 象：学校教育関係者、PTA、社会教育関係者、その他子どもの教育に関心のある方

受講料：無料

定 員：50人

参加者：50人

講 師：生重幸恵（NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長

／一般社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 代表理事）



(受講者の声)

- ・地域社会の活性化が教育の活性化につながる。学校と地域の具体的な連携を考えていきたい。
- ・学校が地域の中心であることを再認識した。あらためて地域と学校の連携の必要性を学んだ。
- ・キャリア教育とは「生きる」教育だと知りました。
- ・生徒の力を育むため一人で考えず、仲間をみつけ、今日聞いたような学校&社会教育を実現できるように動く。職場で共感できる仲間を増やしていきたい。
- ・まわりで行われている教育に関する事業について冷静に分析してみたい。その意義を深く考えてから自分のできることを探したいです。

(まとめ)

講師の生重先生の熱のこもったお話しに、受講生は終始圧倒されっぱなしだった。文部科学省の中央教育審議会委員も務める講師から、文部科学省が目指す方向性や国の施策、各地域の先進事例を聞くことができ大いに刺激を受けたようであった。質疑応答でも活発な議論がなされ、受講者の問題意識の高さが伺えた。

アンケートを見ると、教員やPTA、社会教育関係者、地域活動に取り組む方など、多様な立場の方が参加しており、それぞれが自らの立場でできること、やるべきことについて考え、また前向きに取り組むことを決心した回答が多くみられた。今後もこのような講座を継続的に実施し、学びを行動に促すことができるよう取り組んでいきたい。

子育て勉強会

趣 旨：学校の勉強についていけない、家庭学習の習慣付けができない、塾に通っているけど成績が上がりらない、つい感情的になって子どもと話しができない…など、子育てに関する悩みを抱えながらも誰に相談していいかわからないという保護者は少なくない。講座では、子どもの発達過程に応じた接し方や家庭での学習支援の方法などを具体的な事例を通して学ぶ。また、困ったときに相談できる社会資本についても情報提供することで、子育てを通して豊かな時間が持てるようになることを目的とする。

日 時：平成27年1月18日、1月25日、2月7日（全て土曜日）15：00～16：30 全3回

場 所：若狭公民館 第1研修室、和室

対 象：那覇市在住、在勤、在学の18歳以上の方。

受 講 料：無料

定 員：各10人 参加延べ人数：28人

講 師：佐渡山 要、具志 憲人

学習プログラム

回	月 日	講 師	内 容	人 数
1	1月18日	佐渡山 要	塾いらずの高校入試対策と学校理解 ・今時の中学生 ・高校入試に必要なこと	11人
2	1月25日	佐渡山 要	家庭での子ども学習支援 ・家庭学習に必要なコト ・学びの階段（守破離）	13人
3	2月5日	佐渡山 要 具志 憲人	子育てお母さんの困ったときの裏技ガイド ・ケース会議 ・地域でできるコト	6人



（参加者の声）

- ・子どもがどのタイプか知る事、親子でお互い自分を見つめる時間を作ってみようと思いました。その上で勉強についてどう考えるか、「学ぶ」意欲が出るように話し合っていきたいと思います。
- ・とても参考になりました。学校では子ども一人一人に気を配る事ができない。「他力」がとても必要だと思います。

（まとめ）

本講座は、文部科学省「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」の一環として実施した。高校入試の偏差値などの仕組みを具体的に知ると同時に、「勉強ができない理由」の分析を正確にする事で、支援方法や解決方法が変わることを学んだ。また、地域にある様々な支援団体や支援人材について知ることで、課題解決の糸口として家庭と地域がつながる必要性を感じることができたように思う。

少人数で意見交換をしながら進めることで、悩みや思いを共有でき、有意義な時間を過ごすことができた。

6 その他事業

〔1〕 地域連携事業

第18回 若狭地域文化祭

趣 旨：地域特性を活かし地域住民が関係機関・団体と連携・協力して文化的行事を企画実施することで、高齢者から幼児・児童・生徒までの三世代間の交流と地域の連帯意識の強化を柱に、祭りに訪れる県内外の観光客との交流を図り、地域文化を再認識するとともに、新たな文化を掘り起こし発信することにより、青少年の健全育成と豊かで活気に満ちた潤いのある地域を創ることを目的とする。

日 時：平成26年11月1日（土） 13：30～18：30

場 所：若狭海浜公園

参加人数：3,000人

主 催：NPO法人地域サポートわかさ

【内 容】

舞台発表	吹奏楽、エイサー、獅子舞、旗頭、ハワイアンフラ、ベリーダンス、他
子どもイベント広場	エプロンシアター、大型絵本、スポーツチャンバラ、制作コーナー、他
各種ブース	健康相談（無料）、NSPCパネル展示
出 店	沖縄そば、いなり、焼き鳥、から揚げ、かき氷、フライドポテト、他



（まとめ）

第18回を数える若狭地域文化祭は、若狭近隣地域の各自治会および小・中学校、保育所、ならびに各社会教育関係団体からなる実行委員会を立ち上げ、地域住民が主体となって企画・運営している。

舞台発表は、幼児、児童・生徒、地域婦人部、サークル団体の発表の場となっているほか、獅子舞、エイサー、琉球道場の演舞もあり、地域の芸能文化に触れることができた。

子どもイベント広場では、若狭児童館が様々な遊びのプログラムを提供しているのをはじめ、沖縄福祉保健専門学校が授業の実習も兼ねて参加し、充実した遊びと異年齢交流が実現した。また、今回はキャリア教育の取り組みとして「キッズ販売体験」を実施することで、みんなで知恵を出し合い協力しながら働くことを考えるきっかけとなった。

天気には恵まれたが、日差しが強かったため幼児や高齢者の体調管理が心配だった。緊急時に備え救護班は設けているが、今後はさらに熱中症予防対策の周知徹底に努めたい。

CGG年末美化清掃プラスONE

趣 旨：地域の各機関が一丸となって清掃をし、親睦を通して青少年健全育成を図る。自治会、婦人会、小中高生、PTA関係者、NPO、公民館利用団体が参加し、若狭地域にある公園、道路、地域の清掃を実施し、プラスONE活動として、若狭公民館利用団体連絡協議会による豚汁の振舞いなべを食べることで、親睦が深まることを趣旨とする。

日 時：平成26年12月21日（日）9：30～12：00

場 所：旭ヶ丘公園、若狭海浜公園、若狭公園、地域清掃

対 象：若狭小学校地区の保育園・幼稚園・小・中・高校生、自治会、婦人会、老人会、PTA関係者など

参 加 者：200人

プログラム

	時 間	内 容		人数
1	9：30～11：00	地域清掃	オープニング、地域の清掃（若狭海浜公園・若狭公園・旭ヶ丘公園ほか）	200
2	11：00～12：00	シンメーナービー 交流会	シンメーナービーで豚汁・おにぎりを食べながらの 交流会（若狭公民館駐車場）	150



<主な参加団体>

ナハ・シー・パラダイス協議会／若狭一丁目自治会／若狭二丁目自治会／若狭三丁目自治会／若狭めおと自治会／若狭公民館利用団体協議会／若狭小学校／那覇中学校（順不同）

(まとめ)

地域が主体となりCGGの呼びかけを行う本事業も第9回目。自治会、学校、その他団体が参加し、旭ヶ丘公園、若狭海浜公園、若狭公園で、普段、目が届かないところにある燃えるゴミ、燃えないゴミ、草木類、カン、BIN、ペットボトル等の清掃・回収を行なった。

清掃終了後のプラスONE活動として、若狭公民館利用団体連絡協議会の協力でシンメーナービによる豚汁とおにぎりを振る舞い、参加者で交流を深めることができた。

新春もちつき大会

趣 旨：地域の皆さまの健康と子ども達の健やかな成長を願って餅について新年を祝う。また、地域住民の交流と親睦を深め、豊かな潤いのある地域づくりをはかることを目的とする。

日 時：平成27年1月10日（土） 10：00～12：00

場 所：若狭公民館玄関前

対 象：若狭公民館地域住民

参加費：無料（箸、皿、コップ持参）

参加人数：300人

【 プログラム 】

- オープニング ①お正月の歌「一月一日」
 - ②子ども獅子舞/合奏……………あゆみ幼稚園
 - ③エイサー（七月節、だんじゅかりゆし）…若狭ちむどんどん太鼓
 - ④獅子舞い……………波上宮獅子舞保存会
- 開会のあいさつ……………地域サポートわかさ理事長（早川忠光）
- 激励のことば……………若狭小学校校長（與古田思信）
- 館長あいさつ/関係者紹介……………若狭公民館館長（平良恒次）
- つき始め式……………各自治会長、小学校校長 他
- 餅つきと振る舞い餅



(参加者の声)

- ・子ども達にもちつきを体験させることができて良かった。
- ・つきたてのおもちがとてもおいしかった。

(まとめ)

もちつき大会は毎年開催される恒例の行事となっており、お正月の楽しみのひとつとなっている。オープニングで保育園児による獅子舞いと合奏、子どもエイサー、波上宮獅子舞いで会場を盛り上げた後、餅つきを行った。幼児から高齢者まで大勢の人々が集まって和気あいあいとつきたてのお餅をいただいた。また、この行事は準備から片付けまで地域サポーターのみなさんのご協力をいただいて実施していることもあり、地域の絆、結束を感じたひとときだった。

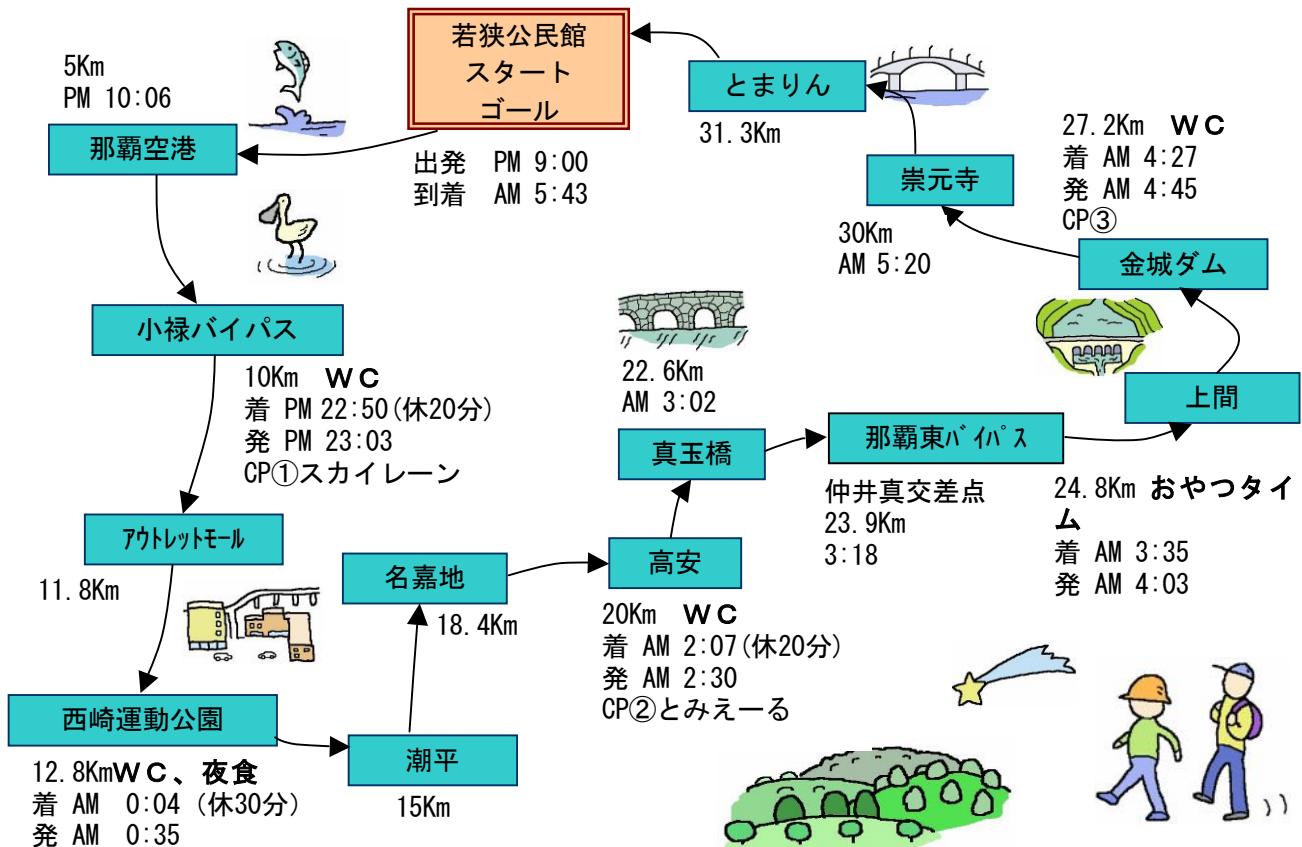
第20回ナイトウォーク

趣旨：中学生が、非日常的な体験の中でお互いに励まし合い、助け合いながらゴールを目指すことにより連帯感・達成感・充実感を共有し、友情を深め困難に立ち向かう気力を培うことを目的とする。

期日：平成27年3月21日（土）19:30集合～22日（日）7:30解散

対象：那覇中学校及び上山中学校の生徒 参加費：1,000円（夜食・朝食・おやつ代、保険料その他）

参加人数：53人 スタッフ37人（職員を含む） コース：32キロ



(受講者の声より)

- ・ しんどかったけど、やりおえた歓びがあった（3年生）
- ・ チームワークが大切だと思った（2年生）
- ・ 市民体育館横の坂が苦しかった。また来年も参加したい（2年生）

(まとめ)

今年で20年目となるナイトウォークは、大きな事故やトラブルもなく、無事に終了することができた。途中で雨に降られたが、みんなで支え合って完歩することができた。

〔2〕 文部科学省「学校と地域の新たな連携体制構築のための実証研究事業」

大学生が教える勉強会

趣 旨： 家庭学習の仕方がわからず勉強に苦手意識を持っている、または塾には行っていないが誰かに勉強を教わりたいと思っている児童生徒を対象に放課後の学習支援を実施する。小・中学生にとっては、年齢の近い大学生から勉強を教わることで、近い将来をイメージすることができ学習意欲を高めることができる。また、教職志望の大学生（インターン）には、小・中学生の実態を知ると同時に地域の様々な機関や団体と連携する意義について考える契機となる。

期 間： 平成26年12月19日（金）～2月27日（金） 全10回

時 間： 18:00～20:00

場 所： 若狭公民館 第1研修室・第2研修室・実習室・ロビー

対 象： 若狭小学校、天妃小学校、那覇中学校、上山中学校の児童生徒（4年生～中学3年生）

登録者数： 40人

参加延べ人数： 241人

学生インター： 14人

協 力： 学生団体IKAROS



（受講者の声）

- ・ 大学生がわかりやすく教えてくれて楽しかった。
- ・ またやってほしい。

（保護者の声）

- ・ 参加してから宿題をこなす時間がかなり短くなった。とにかく大学生が面白い、優しい、とキャラクターに大満足。憧れを持つようになった。
- ・ 以前よりは家庭学習に向かうようになった。大学生と一緒に勉強できて嬉しかったようです。
- ・ 宿題を一緒に聞いてもらい、解き方も分かり易かったようで楽しかったと言っていました。

（まとめ）

当初予想していたよりも参加者が多く、はじめは場所の確保とグループ分けなど運営面で苦労した。また、最初は興奮した小学生に学生インターが戸惑う場面もみられたが、徐々に信頼関係を築くことができ後半は集中して学習できる環境を作ることができた。

高校受験を控えた中学三年生も数名参加していたが、大学生から教わることで少しづつ自信をつけた様子だった。合格発表の日に、大学生に伝えて欲しいと合格したことを知らせる電話をもらえたのは嬉しかった。

今後は、このような取り組みを継続できる仕組みを作っていきたい。

地域円卓会議「みんなで考える、若狭の未来の作り方」

趣 旨： 時代の変化の中であらためて見直される「地域のあり方」や「学校と地域の連携のあり方」について、学校と地域の連携における先進事例を生み出し続けている杉並区の事例から学ぶ。また、多様な主体による円卓会議により、地域住民や団体がそれぞれの特色を生かすことのできるまちづくりと地域全体で子どもたちを育むことについて考える。

日 時： 平成27年2月15日（日）14：00～17：00

場 所： 若狭公民館 ホール **対 象：** 那覇市在住・在勤の方

受講料： 無料 **参 加 者：** 43人

講 師： 中曾根 聰（杉並区教育委員会 学校支援課教育連携担当係長）

共 催： NPO法人沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク、なはグッジョブ連携協議会

内 容	テー マ	講師・パネリスト
第1部 基調講演	子どもも大人も楽しい 「学校と地域の連携」	中曾根 聰（杉並区教育委員会 学校支援課教育連携担当係長）
第2部 円卓会議	「地域の子どもは地域で育てる」 これからの学校連携の在り方	【論点提供】宮城 潤（若狭公民館 職員） 【コーディネーター】翁長 有希（NPO法人沖縄キャリア教育学校支援ネットワーク） 【パネリスト】中曾根 聰 生重 幸恵（キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 代表） 添石 幸伸（那覇商工会議所青年部） 平良 治（若狭小学校PTA 会長） 高吉 良輔（松島青年会 元会長） 玉城 成男（若狭小学校区まちづくり協議会） 山里 望（那覇中学校 校長） 輿古田 思信（若狭小学校 校長）



(受講者の声)

- 同じ課題を共有していることが分かり、また、たくさんの事例を聞くことができ、参加者の方たちを心強く思いました。一期一会を大切にし、次につながるようにしていきたいです。
- 地域と学校が連携し、地域で子どもを育てることは大切だが、地域の特性に合わせた手法を編み出す必要がある。ゆるやかな連携でみんなが楽しく取り組んでいければいい。

(まとめ)

杉並区における「コミュニティスクール事業」「学校支援本部事業」「すぎなみ大人塾」などの先進事例を学ぶことができ、あらためて若狭地域における「まちづくり」や「学校と地域の連携」について考える良い機会となった。第2部の円卓会議では、多様な主体による発表をもとに具体的な行動計画につながる議論ができた。ここで得た議論をより有用なものにするために、つながりを生かした事業展開を考えていきたい。

〔3〕 その他事業

第1回 こども国際映画祭in沖縄

趣 旨：映画制作会社「ククルビジョン」と那覇市教育委員会の共催で開催された『こども国際映画祭in沖縄』のこどもたちへのワークショップを若狭公民館が担当した。映画を通して世界を知って欲しいという思いの元、映画を観せるだけでなく、こどもたちが映画界のスタッフとして関わってもらうことで、様々な角度から映画について学ぶ場となった。

期 間：平成26年7月27日（日）～11月24日（月）全12回

場 所：若狭公民館ホール **対 象**：小学3年生～高校3年生

参 加 料：500円（保険料等実費） **参加延べ人数**：806人

学習プログラム

回	月 日	講 師	内 容	人 数
1	7月27日10時～12時	真喜屋 力	オリエンテーションとフィルム映画の鑑賞	73
2	8月16日10時～12時	真喜屋 力	アニメーション制作	71
3	8月17日10時～12時	真喜屋 力	アニメーション制作	70
4	8月24日10時～12時	真喜屋 力 米須 雄作	アニメーション制作 アニメーションに音楽をつけるワークショップ	58
5	9月14日10時～12時	真喜屋 力	映画祭スタッフ 役割分担	58
6	9月28日10時～12時	真喜屋 力	役割ごとに映画祭の準備	74
7	10月19日10時～12時	真喜屋 力	役割ごとに映画祭の準備	62
8	10月31日10時～12時	真喜屋 力	映画祭の宣伝のため記者会見	64
9	11月9日10時～12時	真喜屋 力	映画祭のオブジェ「顔ハメ看板」制作	52
10	11月16日10時～12時	真喜屋 力 新垣 レイ	映画祭のオブジェ「顔ハメ看板」制作 役割ごとに映画祭の準備	72
11	11月23日9時～18時半	真喜屋 力	映画祭本番	78
12	11月24日9時～19時	真喜屋 力	映画祭本番	74



(まとめ)

応募者が100人を超えたワークショップで、様々な方が関わるワークショップとイベントだったため、いろいろなことが学べた。こどもに主体性を持たせたいという想いがあったが、そのためにはこどもたちの意見を待つ時間が必要だと感じた。また、大人数を受入れる場合は想定外のことが起こりやすく、意思統一などにも苦労するので、予めの用意・シミュレーションなどが非常に重要だとわかった。「貴重な体験ができた。」「またぜひ参加したい。」など、こどもたちからの好感触な声が多かったのが良かった。

無料英会話教室「ELIPO」

趣 旨： 就学援助受給世帯及びひとり親世帯の小中学生を対象に、無料で英語体験授業を行う。近年、格差社会と呼ばれ、貧困の連鎖が問題となる中で、家庭とは異なる大人との出会いや自信を持って取り組めることの重要性が指摘されている。英会話を通して多様な大人と出会い、将来への指針を得ることができるきっかけづくりを目的とする。

期 間： 平成26年8月17日（土）～平成27年3月28日（土） 全22回

時 間： 10:00～12:00

場 所： 若狭公民館 第2研修室

対 象： 就学援助受給世帯及びひとり親世帯の小中学生

受講料： 無料 参加延べ人数： 236人

講 師： 川畑 彩 (NPO法人ELIPO 代表) 共 催： しんぐるまさあず・ふおーらむ沖縄



第三種郵便物認可

NPO法人エリポ

困窮家庭の子に夢を 英会話、無料で指導

ひだりの窓側や就学援助受給家庭の小中学生だ。英語学習を
無料で提供するNPO法人「エリポ」がこの活動を
始めた。17、24日に開催の午後2時から3時半まで、沖縄
市若狭公民館で英会話体験授業を行った。英語を身につける
ための活動開催を始めた。代表の川畑さん（38）は「英語を
学ぶ機会が少ない子供たちが、英語を楽しんでほしい」と語る。
川畑さんは「英語は理系・文系問わず必要。基礎として学んでほしい」と、英語に特化した学習支援の概要を説明。17日に
開催される午後2時から3時半まで、沖縄市若狭公民館で英会話体験授業を行った。英語を身につけるための活動開催を始めた。代表の川畑さん（38）は「英語を身につける機会が少ない子供たちが、英語を楽しんでほしい」と語る。

(新聞掲載記事：琉球新報2014.8.14)

困窮家庭の子に英語支援
17・24日 無料で授業体験

NPO法人ELIPO（エリポ、前略代表＝写真右）は、17日と24日の午後2～4時、那覇市の若狭公民館で、英語授業受給世帯やひとり親世帯の小中学生を対象に行う無料の英語体験授業の受講生を募集中としている。

川畑代表は「英語は理系・文系問わず必要。基礎として学んでほしい」と、英語に特化した学習支援の概要を説明。17日に開催される午後2時から3時半まで、沖縄市若狭公民館で英会話体験授業を行った。英語を身につけるための活動開催を始めた。代表の川畑さん（38）は「英語を身につける機会が少ない子供たちが、英語を楽しんでほしい」と語る。

(新聞掲載記事：沖縄タイムス2014.8.15)

(まとめ)

ELIPO（エリポ）は、English Language Immersion Program in Okinawa（イングリッシュ・ラングエッジ・イマージョン・プログラム イン・オキナワ）の頭文字を取って命名されたNPO法人で、この事業はNPO法人ELIPOの提案で生まれた。代表の川畑氏は「沖縄の将来を担う子どもたちに対して、自分が貢献できることをしたい」と、この事業のアイディアを持っていたが、なかなか実現に向けての具体的な方策が得られず、若狭公民館に相談にきたことで、実現するに至った。当初は、受講生も少なかったが、だんだん周知されるようになり、回を追うごとに増えている。はじめは大人しかった子どもたちもだんだん大きな声で受け答えするようになり、徐々に自信をついていることがわかる。また保護者からも好評で、次年度以降も継続して実施することが決まった。この事業を通して、地域や社会に対して想いを持って活動しようとする人の後押しをするのも公民館の重要な役割の一つであることをあらためて実感した。

7 公民館まつり

第23回 若狭公民館まつり

趣 旨：若狭公民館で活動している団体（サークル）の活動成果を発表・展示することにより、団体の学習活動継続への刺激を与え、団体（サークル）相互の連携を深めること。また、若狭および周辺地域を巻き込んだ「地域まつり」的な性格をもつまつりとする。

期 間：平成27年2月28日（土）、3月7日（土）、8日（土）

会 場：若狭公民館 参加延べ人数： 2, 937人

主 催：若狭公民館利用団体連絡協議会

共 催：若狭公民館・図書館、NPO法人地域サポートわかさ

内 容	時 間	会 場	参加人員
社交ダンスパーティー	2月28日(土)18:30~21:00	ホール	100
親子でつくろう♪お菓子の家	3月7日(土)10:00~12:00	ホール	35
オープニング	3月7日(土)13:00~13:40	公民館前道路	100
うちなーぐち劇・発表	3月7日(土)14:00~16:00	ホール	100
音楽演奏のタベ	3月7日(土)18:00~20:00	ホール	400
展示発表	3月7日(土)10:00~17:00 3月8日(日)10:00~14:00	研修室	500
舞台発表	3月8日(日)12:30~16:00	ホール	1000
健康相談コーナー	3月8日(日)12:00~16:00	2階ロビー	12
出店コーナー	3月8日(日)11:00~16:00	玄関	350
喫茶コーナー	3月7日(土)10:00~16:00 3月8日(日)10:00~16:00	2階ロビー	340
社交ダンスパーティー	2月28日(土)18:30~21:00	ホール	100



(まとめ)

第23回若狭公民館まつりは、若狭公民館利用団体連絡協議会が中心となって、舞台発表、展示発表、運営などを行った。今年は「うちなーぐち劇・発表」を開催し、保育園や児童クラブにも発表していただき、好評を得た。音楽演奏のタベ、舞台発表では、音響機材の改善により雑音が減少し、スムーズに運営することが出来た。サークルの成果発表に加え、若狭小学校及び幼稚園の児童、園児の発表もあり、多彩な演目により華やかではあったが、出演団体数が減少傾向にあるのは課題と言える。今後は舞台発表及び音楽演奏のタベの開催時間やプログラムなどを工夫する必要性を感じた。

公民館まつり風景

